

「おかえりなさい」招店街へ



時代が変わっても変わらないものがこの街にある。  
大切なものほどさりげなく、ずっと変わらずそばにある。  
そのはかなさと大切さに気づきはじめた今、  
「つながり」をつなぐために、わたしたちができること…

つなぐ、つながる。

全盛期の活気はないけれど、この街のひたむきさやあたたかさは、今も決して失われてはいません。時は人の暮らしを変えていきましたが、商店街には変わらない心が残されています。

わたしたちは、便利で、効率的で、かつこ良く、新しいものに心を奪われてきました。身の回りが物であふれる中で、社会とのかかわりが億劫になり、やがて地域や人間関係も希薄になっていきました。

そして近年「協働」や「環境」という言葉が声高に叫ばれるようになり、社会全体が見失ってしまったものの大きさ、地域や人と人との「つながり」の大切さによくやく気付いてきたのです。

わたしたちの商店街がなくなるといことは、単に一つの街が消滅するだけでなく、わたしたちが「地域」と「つながり」を失ってしまうことを意味しています。

その「つながり」をつなぎ止めるのは、まだ間に合う「今」しかありません。

商店街を再興するのは難しいことかもしれません。商店と住民、地域と行政が同じ方向を向いて取り組まなければ、街の衰退は止められないでしょう。

しかし、わたしたちの意識次第で、このすばらしい財産を次代へつなぐことは可能です。物はお金で買えるけれど「通じ合う心」に価格は付けられません。

いま、わたしたちが失いかけて再び確信した「つながり」の大切さ。その「心のつながり」を少しずつ積み上げていくことは、今からでも決して遅くはないのです。

それにはまず一人ひとりが商店街に目を向けること。その見守るまなざしが商店街をより身近にし、町と地域とわたしたちの「これから」へとつなげていきます。将来、新たに作り上げた心の豊かさを実感する日が、きっと来るはずです。

街が人を招き、店がふれあいを招き、人がつながりを招く…

わたしたちの小さな意識転換は、すべて「街」と「未来」と「自分」につながっています。

特集 招店街

【資料提供】 荒牧直純さん/植田辰生さん/植田久稔さん/宇野等さん/香月久生さん/桑野武平さん/竹崎昇造さん/谷口秀樹さん/羽田野憲治さん/松田哲幸さん/松若光子さん/三村貢作さん/柳澤勝美さん/矢野義隆さん/山本五男さん/吉田直史さん(五十音順)